

エコアクション21 環境経営レポート

令和6年度版

対象期間: 令和6年1月1日～令和6年12月31日



エコアクション21ガイドライン2017年度版

発行日: 令和7年1月20日

株式会社丹羽自動車工業

1. 組織の概要

1. 事業所名及び代表者氏名

株式会社 丹羽自動車工業

代表取締役 丹羽 昭広

2. 所在地

〒924-0051

石川県白山市福留町603番地

3. 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者	代表取締役	丹羽 昭広
連絡担当者	工場長	松本 晃彦
電話	076-277-0002	
FAX	076-277-1148	
e-mail	info@niwa-auto.jp	

4. 事業の規模及び事業内容

法人設立年月日	1975年8月1日	
資本金	1,000万円	
従業員数	17名	
述床面積	1,169m ²	
売上高	4億 3千万円	(令和6年度: 令和6年1月1日～令和年12月31日)
	(サービス) (2億0千80万円)	
総在庫台数	6,136台	
販売台数	新車 48台、中古車 104台	
事業内容	自動車の整備・販売、損害保険代理店業務及びレンタリース業	

2. 対象範囲

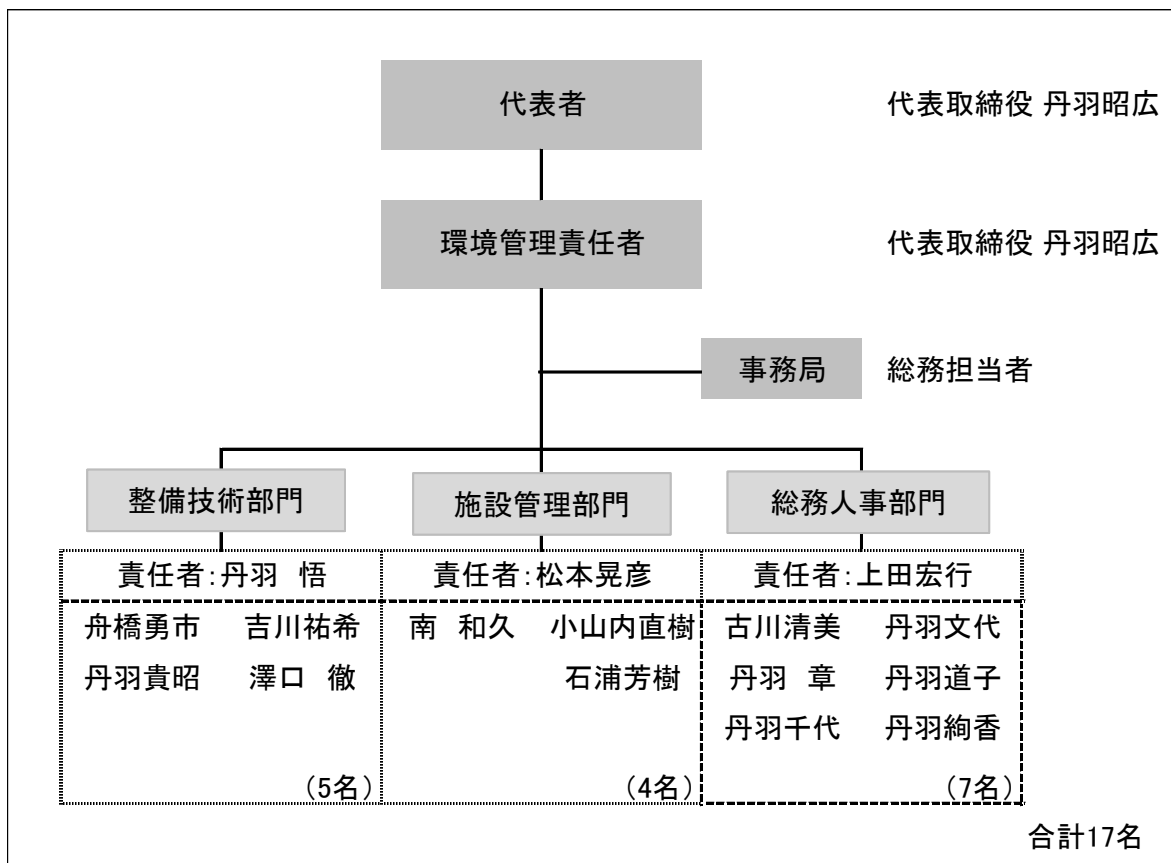
1. 認証・登録範囲	全組織	株式会社丹羽自動車工業
	全活動	自動車の整備・販売、損害保険代理店業務及びレンタリース業

2. 環境経営レポートの	令和6年1月1日～令和6年12月31日
対象期間及び発行日	令和7年1月20日発行

3. 株式会社 丹羽自動車工業

エコアクション21 推進体制表

令和6年4月1日現在



【各部門の責任者とその役割】

代表者	環境経営方針の策定
	環境管理責任者の任命
	環境保全に関する人、もの、金の提供
	エコアクション21システムの見直し
環境管理責任者	エコアクション21活動の責任者
	環境経営レポートの作成、公開
	環境経営目標、計画、実績の進捗管理
	環境関連法規の順守評価
事務局	環境管理責任者の補佐
	進捗管理のデータ収集、集計、整理
各部門及び全社員	環境経営計画の実施
	環境関連法規の順守

4. 環境経営方針

当社は、安心・安全・信頼をモットーにカーライフコンサルタントとして、我々の住むこの地域の環境保全に注力すると共に、自動車販売整備業として環境と整備の両立をはかり、環境経営方針に基づき全社員で活動を推進する。

環境問題は、自動車整備販売に携わる事業者として重要課題であり、二酸化炭素排出量水使用量及び産業廃棄物の削減に積極的に取り組む。

エコ整備の普及促進を通じて、自社はもちろん一般ユーザーにも燃料消費率向上による二酸化炭素排出量削減や排出ガスの浄化整備により、社会に貢献できるのかPRを強化していく。又、低公害車であるエコカーの販売にも努力するとともに、環境関連法規制等厳守し、企業のあらゆる活動において地球環境の保全に配慮し行動します。

(1) 二酸化炭素排出量削減の推進

事業活動において電力・ガソリン・軽油・灯油等の削減による二酸化炭素排出量削減に努めます。また、産業廃棄物の知識を従業員と共に勉強していきます。

EV・PHV車の販売促進、エコドライブの推進

(2) 産業廃棄物排出量削減の推進

事業所から出る廃棄物を最小限にする努力をします。そのために、分別処理の推進。
(紙類・廃プラ・鉄くず・ガラス類・ゴム類・ヘドロ等)

(3) 水使用量削減の推進

事務所内で使用する水使用量の削減に努める。(お客様に提供するサービスを含め)
洗車時の水使用量の削減、温水洗車機の取扱いと設定温度、除雪車使用による融雪装置使用時間の短縮。(天候等を把握の上、融雪装置使用時間の管理徹底)

(4) エコ整備・エコ車検の推進 (ユーザーによる二酸化炭素排出量削減も含む)

自動車において燃費向上による削減や、有害な排気ガスの排出量削減を目指し、エコ整備を積極的に推進する。また、社内教育を徹底しユーザーに対する的確なアドバイスが出来るよう社員全員で取り組む。(エコドライブの推進)

エンジン洗浄、エコタイヤ(窒素注入)、エコアース等の推進

(5) リサイクル活動による省資源化の推進

省資源化実現のため、リサイクル部品の使用を積極的に推進します。
(ユーザーに対し、的確な説明による販売促進)

(6) 環境関連法規制等の遵守

環境関連法規制等々につき、社内教育実施に伴い法規制を遵守する事を誓約します。

(7) 地域の人及びお客様とのコミュニケーションを大切にして地域の発展を心掛けていきます。

(8) この環境方針は、当社従業員に周知するとともに一般の人にも公開します。

平成30年1月20日

株式会社 丹羽自動車工業
代表取締役 丹羽 昭広

【環境経営方針とSDGsへの取組み】

持続可能な未来への貢献と当社が持続的に発展するために、SDGsのゴールと環境経営方針・環境経営目標を関連付け、社員一人一人がSDGsのゴールを目指して活動が続けます。

★は重点項目、●は関連項目

SDGsの目標とターゲット			3 すべての人に健康と福祉を 	6 安全な水とトイレを世界中に 	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	11 住み続けられるまちづくりを 	12 つくる責任 つかう責任 	13 気候変動に具体的な対策を 	15 陸の豊かさも守ろう 	17 パートナーシップで目標を達成しよう 
			3. 9 病の有害な汚染物質を大幅に削減させ	6. 4 減らす水の持続可能な利用の効率を改善し、水質を確保	7. 3 エネルギー効率の改善率を倍増させる	11. 6 悪影響を軽減し、都市環境の管理	12. 2 12. 5 の3Rの推進により、廃棄物の発生を減らす	13. 2 13. 3 能力を改善する気候変動対策に対する人的気候変動に織り込む戦略及び計画	15. 1 陸の生態系及びその持続可能な利用を確保する	17. 17 奨励・推進
環境経営目標	活動内容									
1 二酸化炭素排出量の削減の推進	空調温度や照明管理の徹底、エコドライブの実施			●				★		
2 産業廃棄物排出量の削減の推進	廃棄物の発生量を最小限にし、分別を徹底	●					★	●	●	
3 水使用量の削減の推進	節水の徹底、洗車機使用時間の短縮		★							
4 エコ整備・エコ車検の推進	環境汚染防止整備の促進、エコ車検の推進	●		●	★					
5 リサイクル活動による省資源化の推進	リサイクル部品を積極的に使用			●			★			
6 環境関連法規制等の順守	環境関連法規制等の順守を徹底する									●
7 地域およびお客様とのつながりを大切に	地域およびお客様とのつながりを大切にする									★

5. 環境経営目標とその実績

1. 令和6年度の目標

二酸化炭素排出量、二酸化炭素排出量原単位、産業廃棄物発生量、水使用量において今年度は原則として前年度実績を基準に1%削減とする目標に設定しました。

エコ整備につきましては、前年比1%増を目標と設定しました。

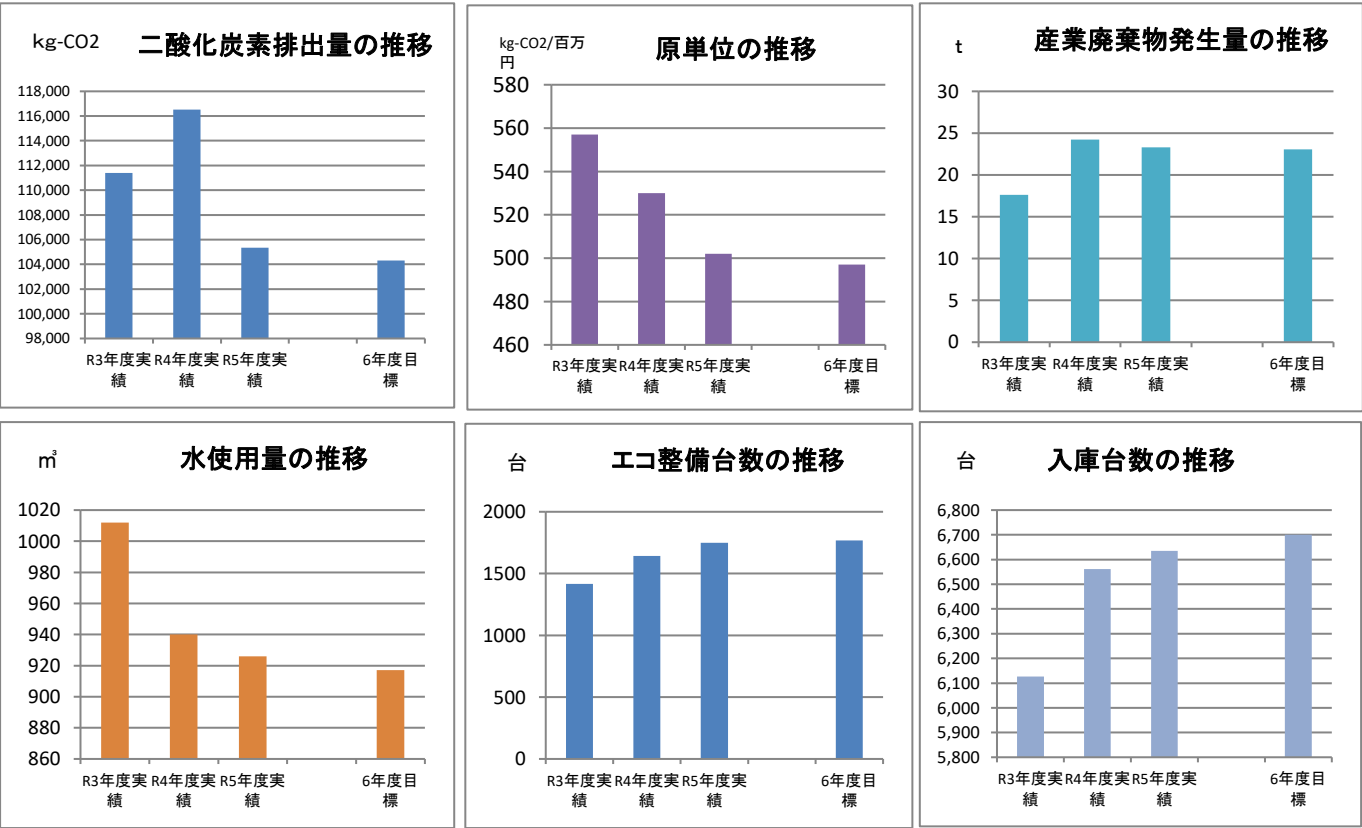
入庫台数につきましては、前年比 1%増を目標と設定しました。

2. 過去3年間の実績と今年度の目標

	単位	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	6年度目標
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	111,388	116,527	105,354	104,300
売上高実績	百万円	200	219	208	210
原単位実績	kg-CO ₂ /百万円	557	530	502	497
産業廃棄物発生量	t	17.62	24.23	23.3	23.07
水使用量	m ³	1012	940	926	917.0
エコ整備台数	台	1416	1642	1750	1,768
入庫台数	台	6,127	6,562	6,635	6,701

二酸化炭素排出係数は0.562(kg-CO₂/kWh) R3年度より変更

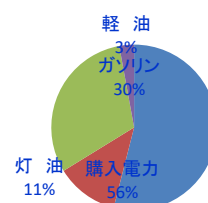
二酸化炭素排出係数はR2年度までは0.641(kg-CO₂/kWh)を使用



3-1. 令和6年度の二酸化炭素排出量の実績と内訳

	単位	6年度実績	割合(%)
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	102,730	
購入電力	kg-CO ₂	55,451	
灯 油	kg-CO ₂	12,587	
ガソリン	kg-CO ₂	31,753	
軽 油	kg-CO ₂	2,957	

二酸化炭素排出量の内訳



3-2. 令和6年度の目標・実績・評価

		6年度目標	6年度実績	達成率(実績/目標)	評 価
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	104,300	102,730	0.98	○
売上高実績	百万円	210	201	0.96	×
原単位実績	kg-CO ₂ /百万円	497	510	1.03	×
産業廃棄物発生量	t	23.07	18.89	0.82	○
水使用量	m ³	917.0	902	0.98	○
エコ整備台数	台	1,768	1523	0.86	×
入庫台数	台	6,701	6,136	0.92	×

(二酸化炭素排出係数は0.641⇒0.562(kg-CO₂/kWh)R3年度より変更)

- ・令和5年度の二酸化炭素排出量は昨年より抑えることができました。特に化石燃料を年間を通して削減できたことが大きな要因だと思います。冬季の状況により大きく変動するのが灯油の使用量だったり、エアコンの使用量にが大きく変わってくるので社員の意識が重要になってくる。
- ・産業廃棄物においても昨年より排出量を抑えることができ、日ごろの社員の実践が減少に繋がっている。廃タイヤについては、処分料金の値上がり依然在と留まりなく続いているのが厳しく、お客様より頂いている処分料金も値上げせざる負えない状況である。何とかお客様に理解していただけるよう、社員教育を通じてうまく説明できるよう継続して社員教育を定期的に行っていく。
- ・購入電力について大幅な値上がりがある中、社員においても社内教育を通じて出来ることをしっかりと継続し少しでも使用電力量を抑えることが出来るよう指導していきます。

4. 令和6年度以降の目標値

	単位	6年度実績	7年度目標	8年度目標	9年度目標
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	102,730	101,703	100,686	99,679
前年比	%		99	99	99
売上高実績	百万円	201	-	-	-
原単位実績	kg-CO ₂ /百万円	510	505	450	446
前年比	%		99	99	99
産業廃棄物発生量	t	18.89	18.70	18.51	18.32
前年比	%		99	99	99
水使用量	m ³	902	893	884	875
前年比	%		99	99	99
エコ整備台数	台	1,523	1,538	1,553	1,568
前年比	%		101	101	101
入庫台数	台	6,136	6,197	6,259	6,322
前年比	%		101	101	101

二酸化炭素排出係数は0.562(kg-CO₂/kWh) R3年度より変更

- ①令和7年度以降の二酸化炭素排出量は令和5年度の実績を基準として毎年1%削減とします。
- ②令和7年度以降の二酸化炭素排出量原単位は令和5年度の実績を基準として毎年1%削減とします。
- ③原単位目標及び実績を算出するための売上高は、サービス部門の売上高とする。
- ④令和7年度以降の廃棄物排出量は令和6年度の実績を基準として毎年1%削減とします。
- ⑤令和7年度以降の水使用量は令和6年度の実績を基準として毎年1%削減とします。
- ⑥令和7年度以降のエコ整備台数は毎年1%増加とします。
- ⑦令和7年度以降の入庫台数は令和6年度の実績を基準として毎年1%増加とします。

5. エコ整備計画・実績

5-1.エコ整備・エコ車検の推進

自動車から排出する人体に有害な一酸化炭素、炭化水素、窒素酸化物、黒鉛等のほか、地球温暖化の原因とされる二酸化炭素による、環境破壊が大きな社会問題となっております。

当社では、自動車から排出される有害なガスを最小限に抑制するため環境にやさしいエコ整備に取組み環境に対する効果や、車両性能の向上において大きな成果を期待しております。

排出ガスの種類	主な発生源	影 響
CO(一酸化炭素)	特にアイドリング時に 多く発生する	血液の酸素運搬機能を阻害し、呼吸困難を引き起こす。
HC(炭化水素)	燃料の石油と燃焼排気 ガスから発生	濃度が高くなると、粘膜を刺激するなど人体に有害、光化学スモッグの原因となる。
NO _x (窒素酸化物)	燃焼排気ガス	鼻やのどに刺激的な作用を起こす、光化学スモッグの主原因。
CO ₂ (二酸化炭素)	燃焼排気ガス	地球温暖化の原因となる。
DS(ディーゼル黒煙)	ディーゼル車の燃料排気ガス	微粒子が環境ホルモンと同じ影響を及ぼす。

(参考:カーコンビニ倶楽部資料)

エコ整備を自動車ユーザーに周知し、継続的に実施して頂けるよう、社員全員で取り組んでいきます

○エンジンオイル・オイルフィルターの交換及びエアクリーナーエレメントの交換・清掃

自動車の有害な排出ガスの削減、燃料消費量の削減、アイドリングの安定と静寂性の向上、エンジン始動性の向上、エンジン本来の性能のよみがえり。

抵抗の少ない低粘度のエンジンオイルを使用することにより、無駄な抵抗を減らし燃費の改善を行います。

○タイヤ空気圧の適正化(窒素ガス充填)

タイヤへの窒素ガス充填。窒素ガスは、タイヤから発生する振動・騒音を大幅に低減し乗り心地が向上するとともに転がり抵抗の低減により燃費の改善が図れます。



○環境対応型部品、商品等の導入に積極的に取り組んでいる。



サービスの受給付けカウンターに
エコ整備・エコ車検をPRしている



環境に配慮したエコ商品
エンジンオイル
バッテリー
タイヤ

実際にエコ商品を展示してお客様に認知度を高める



○交換部品が必要な整備について、ユーザーに対しリサイクル部品の取扱いが可能である旨の
情報提供を行っている。

社員全員が説明できるように、社内勉強を定期的の実施している。
受付カウンターにチラシを貼ってお客様にPR

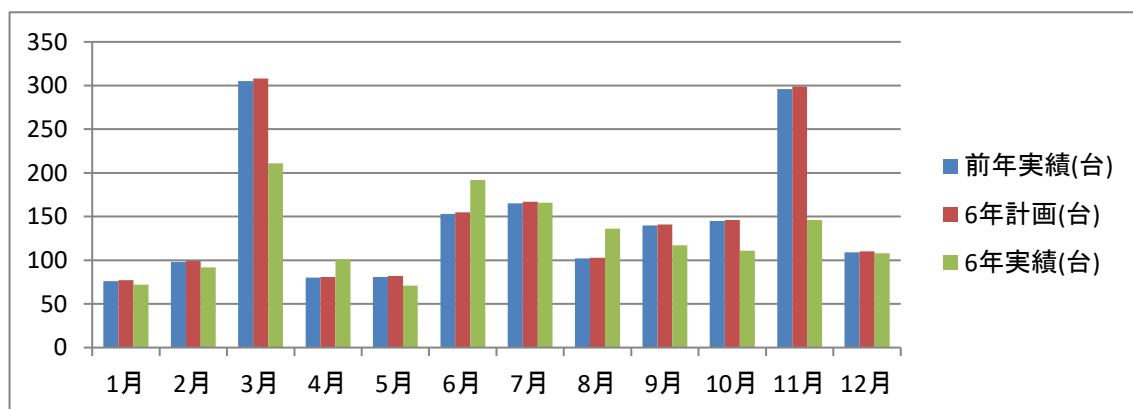


パンフレットなどを使って
お客様に説明

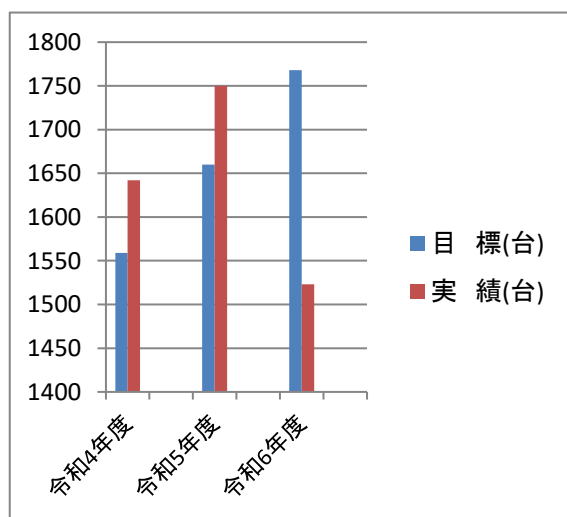
5-2.エコ整備目標・実績

1月～12月実績（台）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
前年実績(台)	76	98	305	80	81	153	165	102	140	145	296	109	1750
6年計画(台)	77	99	308	81	82	155	167	103	141	146	299	110	1768
6年実績(台)	72	92	211	101	71	192	166	136	117	111	146	108	1523
前年対比	94.7%	93.9%	69.2%	126.3%	87.7%	125.5%	100.6%	133.3%	83.6%	76.6%	49.3%	99.1%	87.0%



	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目 標(台)	1559	1660	1768
実 績(台)	1642	1750	1523
目標比	105.3%	106.6%	86.1%

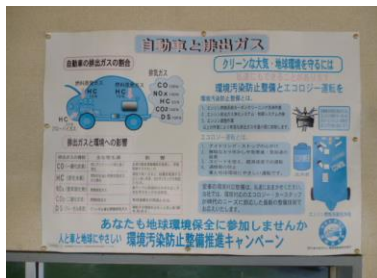


5-3.環境汚染防止整備(エコクリーン)にも取り組んでいます

《エンジン内部洗浄ーエコパワー・カーボンクリーニング》

1. 燃焼系統洗浄(燃料が燃焼する燃焼室内部のカーボンを除去する燃焼室内の洗浄作業)
2. 潤滑系統洗浄(エンジンオイルの潤滑系統の汚れと、ブローバイガス(燃焼室からの吹き抜けガス)で汚れたエンジン内部を洗浄する、潤滑系統内部(オイルフラッシング)の二つの洗浄作業があります。

この作業を行うことで燃焼効率を上げ、本来の性能に戻し、燃費向上を図ります。



【燃焼室内部に蓄積したカーボン】



《エコチューンナップ》

エコアース配線

イグニッションコードアース加工、エンジン本体、発電機、コンピュータ等、バッテリーとの接続をボディアースではなく、直接専用のアース線で接続するアースング配線で、エンジンの燃焼改善から低・中速のトルクアップを始め燃費の改善・有害なガスの減少が期待できます。

アース取り配線により 環境性能大幅向上



(アースコード追加接続例)



6. 環境経営計画(次年度(R7年度)の取組)

環境理念に基づいて地球環境をスローガンに社員が一人ひとり責任を自覚し環境負荷の低減に配慮した活動に取り組みました。

今年度も、昨年の実績をしっかり分析し、目標達成するために以下の活動計画をしっかり推進します。

1. 二酸化炭素排出量の削減

事業所内の整理、整頓、清掃に留意し事業活動において電力購入、ガソリン、軽油などの削減による二酸化炭素排出量削減に努める。また、エコ整備の普及拡大を継続的に推進する。工場内のエアコンプレッサーのエア漏れ点検、温水洗車機・照明器具等の取扱い管理、事務所・ショールーム等の空調管理、照明及び事務機器の取扱い管理の徹底
お客様に提供するサービスの徹底(空調関係の理解、飲み物等の提供等)

2. 産業廃棄物排出量の削減

事業所からの産業廃棄物排出量を最小限にする努力する。また、そのために分別処理を徹底し、各担当者はしっかりと現状を把握する。

コピー紙の裏面使用が結構増えました。

3. 水使用量の削減

事業所内での水使用量、排水量の削減に努める。特に洗車時の使用量、トイレ・洗濯・流し台での使用量、冬季の融雪装置による使用量に配慮する。

融雪装置の使用状況に注意し、使用時間を考える様になりました。

4. エコ整備・エコ車検、エコ車両の販売の推進

社有車の確実な点検整備と一般ユーザーへのエコ整備・エコ車検についての有用性について確実な説明と理解をして頂けるよう、社員教育の実施と入庫促進。

一般ユーザーのエコ整備の認知度が高まり、リサイクル部品の使用量が増えてきております。

5. リサイクル活動における省資源化の推進

グリーン購入による再生紙、事務用品の使用やリサイクル自動車部品の使用を積極的に推進する。(再生部品、リビルト部品の使用による低価格化)

6. エコドライブの推進

社員のエコドライブに関してはかなり推進してきましたが、お客様に対するPRをもっと強化し地球への思いやりを広めていく。

※(令和5年度の環境活動計画・チェック表は別添参照)

7. 環境経営計画の取り組み結果と評価、次年度の取り組み内容

令和6年1月1日～12月31日

(○良好 △不足)

作成令和6年1月20日

	具体的取り組み内容	評価	評価、次年度の取り組み
二酸化炭素排出量の削減 購入電力使用量の削減	空調温度管理(冷房28度・暖房20度設定)	○	今年の冬季2～3月は若干数字は昨年より増えたが、電力使用料としては抑えれたと思う。 12月は寒波が通年より長引き、エアコンの使用時間が長くなった。 電灯等については、社員全員が協力して不必要な時は徹底して管理できるようになった。
	照明の管理消灯の徹底	○	
	昼休みの照明消灯の実行	○	
	全国電力不足につき省エネ努力	○	
	機器等の電源OFFの徹底	○	
	エアコンプレッサのエア漏れ	○	



二酸化炭素排出量の削減 ガソリン、軽油、灯油削減	エコドライブの実施	○	社員全員の意識向上もあり、エコドライブやアイドリングに気をつけ、使用量の削減に徹底できたと思う。12月は寒波がひどく長引いたため灯油の使用量が極端に増えた。 引き続き、社内勉強を通して、更なる意識向上を社員全員で取り組む。
	急ブレーキ急発進の禁止	○	
	アイドリングの低減	○	
	社用車のエコ整備の徹底	○	
	車両洗車機器の使用短縮	○	



産業廃棄物発生量の削減 自社工場での発生物	廃棄物の発生量を最小限に	○	廃タイヤ処分料金が相変わらず値上がり状態が止まらない状況で、タイヤの販売に比例して増えていく状況である。破棄物処理料金の値上げすることにしたが、お客様に理解して頂ける様設枚が必要であり、社員全員にも徹底するよう、促していきます。
	廃棄物の分別処理の実施	○	
	金属類を分別し回収業者に	○	
	廃プラを分別し回収業者に	○	
	廃液分別し回収業者に	○	



	具体的取組み内容	評価	評価、次年度の取組み
水使用量の削減 自社地下水使用 アワメーター取付測定	節水ステッカー貼り付け実行	○	洗車時の水使用量は社員全員が意識をもって使用しているので、ある程度おさえることができています。 冬季の融雪に使用する水量は、寒波に大きく影響されるので苦労している。
	洗車機使用時間の短縮	○	
	ワンストップノズル取り付け	○	
	融雪装置使用の調整と短縮	○	



エコ整備・エコ車検の推進 社内教育の充実を図り、 ユーザーに的確に説明し 理解して頂けるよう推進する	法定1・3ヶ月点検の促進	○	エコ整備・エコ車検等の推進は継続して行っていく。二酸化炭素排出量の環境問題は、お客様たちにおいても意識は向上しているはずである、そこにどうエコ整備が繋がるかお客様理解できるようPR活動を続けていく必要がある。
	環境汚染防止整備の促進	○	
	エコ車検の促進及び教育	○	
	ポスターのぼり旗によるPR	○	
リサイクル活動による 省資源化の推進	省資源化のための再生紙・事務用品	○	省資源化に対する社員の意識向上に引き続き取り組んでいく。 お客様に、リサイクル部品の活用と二酸化炭素排出量の削減との繋がりを重点にお客様にPRしていく。
	社員全員で取り組む	○	
	ユーザーに対する説明と理解度	○	
	リサイクル部品積極的に使用	○	
	リサイクル部品使用のPRする	○	



○『ロータスクラブ・秋の大感謝祭2024』キャンペーン開催

☆『カーケア&タイヤショップ早期予約フェア』開催

(10月1日～11月30日)

日時：令和6年10月26日(土)～10月27日(日) 午前9：00～午後5：00

趣旨：お客様にはロータスクラブの知名度アップと日頃からの感謝の気持ちを込め、社員全員で取り組みました。

お客様にエコ車検・エコ整備、リサイクル部品などが二酸化炭素排出量削減にどの様に繋がっているのか、理解していただけるイベントを目指しています。

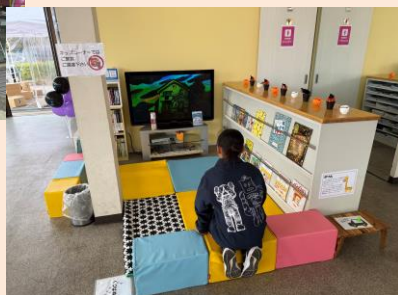
☆スタッドレスタイヤの早期予約の受注！！

・DM送付 : 881枚
・訪問告知 : 20件

ガラポン抽選会やゲーム大会 期間中、豪華成約プレゼント！！



子どもたちのゲームコーナーも設置



キャンペーン期間折り返しになると

TELコール作戦で来店を促す（密にならない様に）

★来場者プレゼント・ガラポン豪華景品や
ご成約人気お菓子のプレゼントを告知して！

★キャンペーンを実施している雰囲気工夫♪



8. 環境関連法規の順守評価と違反訴訟等の有無

法規名	順守事項	当社の順守内容	チェック日
廃棄物処理法 (廃掃法)	運搬・処分は許可を受けた ものが行ふ	契約書(許可証、有効期限のチェッ ク)	R6.12
	廃棄物処理状況の報告 (前年度実績を4-6で報告を)	マニフェスト管理台帳の報告	R6.12
	マニフェスト管理	帳簿の作成 マニフェスト管理台帳	R6.12
消防法	少量危険物貯蔵所の届出	エンジンオイル、廃油の貯蔵所	R6.12
騒音規制法	特定施設設置届出と騒音対策	コンプレッサー(7.5kw)1台の防音室	R6.12
振動規制法	特定施設設置届出と振動対策	コンプレッサー(7.5kw)1台の防音室	R6.12
自動車リサイクル法	使用済自動車の引取業者登録	引取業者の登録(石川県) 引取、移動報告(マニフェスト)	R6.12
フロン排出抑制法	簡易点検の実施及び設備の維持管理	店舗用パッケージエアコン(4台) 3か月に1回以上の簡易点検の実施	R6.12
水質汚濁防止法	特定施設としての設置届出	自動式車両洗浄施設の維持管理	R6.12

環境関連法規の違反及び苦情等はありませんでした。

なお、関係当局より違反、訴訟等の指摘は過去には一度もありませんでした。

環境関連法規に関しては自らが定期的に順守状況をチェックしています。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

全体を通して、二酸化炭素排出量を計画値及び昨年より削減できたことが大変大きい成果であった。冬季の降雪及び寒波の状況で消費電力や化石燃料の消費が大きく左右される地域であり今年は寒波が長く厳しい状況かと思っていましたが、社員の環境に対する取り組みが結果に繋がったと思います。

産業廃棄物の排出量や廃油等においても昨年より削減できました。しかし処理料金の膨大な値上がり状態が続いている中、今年度はお客様に請求している処理料金を値上げ致しました。お客様には、社員全員で説明し理解していただけるよう取り組んでいかなければいけませんし、そのことに合わせて、エコ整備やリサイクル部品の活用を促していく取組も行っていく必要があります。社内勉強や環境に関する講演会などに社員にも参加させることにより、一人ひとりの意識向上を目指します。

令和7年1月20日

株式会社丹羽自動車工業
代表取締役 丹羽 昭広